



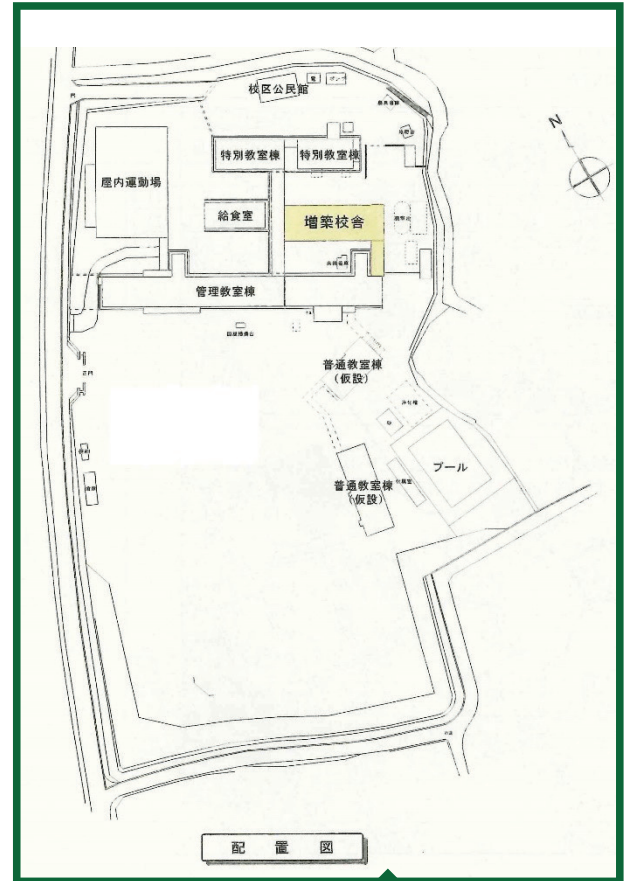
## 新校舎の増築、仮設校舎の解消図る

少人数学級の実施については、2023 年度から小学校3年生の35人学級が始まり、その後、順次進められる予定です。鹿児島市の2022年度予算では、教育委員会に「学校整備室」が設置され、各学校への具体的な対応を検討することが明らかになりました。

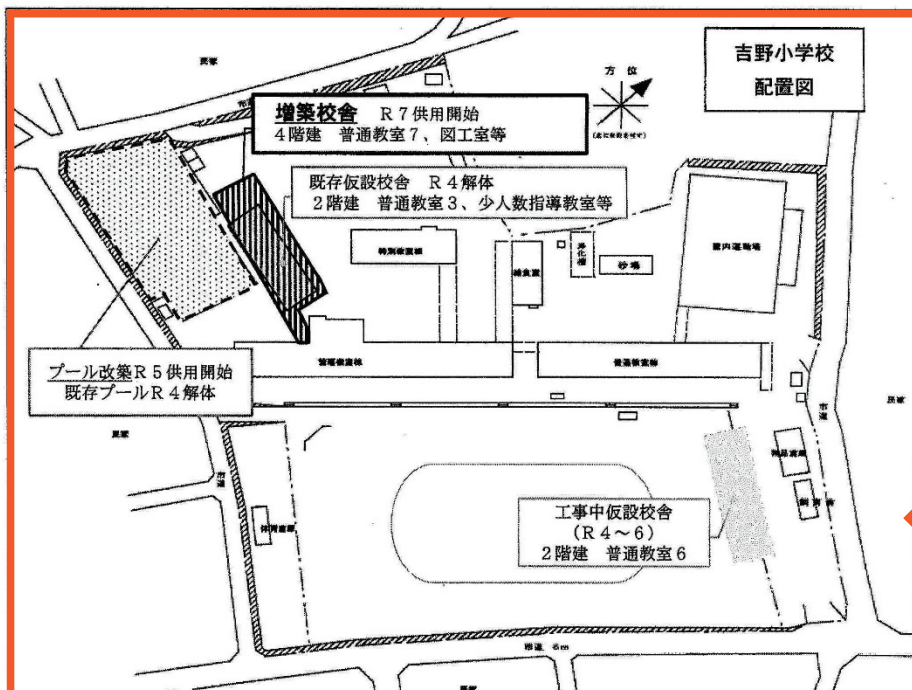
吉野地域では、吉野小学校・吉野東小学校が児童数1,000人を超える「過大規模校」となっており、少人数学級の実現が懸念されましたが、両校に新校舎が増築され、2025年度に供用開始。一部仮設校舎が解消されます。

しかし、2025年度の児童数の予測について教育委員会は吉野小で1,055人の47教室、吉野東小が1,145人の52教室と答弁しており、校舎の増築だけでなく、吉野地域に新しい小学校をつくる抜本的な改善が必要です。

日本共産党は今後も、児童の豊かな教育環境を実現するために全力で取り組みます。



＜拡充＞校舎・屋体等整備事業 (吉野小学校校舎増築)



**名称** 吉野東小学校  
**児童数予測** 1,161→2025年1,145  
**教室数予測** 48 →2025年52  
**延床面積** 1,040㎡(4階建て)  
**新校舎の教室数** 8教室  
**スケジュール** 2022年3月着工  
2023年1月竣工  
2023年4月供用開始

**名称** 吉野小学校  
**児童数予測** 1,161→2025年1,055  
**教室数予測** 43 →2025年47  
**延床面積** 1,400㎡(4階建て)  
**新校舎の教室数** 7教室と図工室等  
**スケジュール** 2022年度 設計・解体  
2023年～ 増築工事  
2025年度 供用開始

# 吉野第二地区土地区画整理事業の進捗は？

鹿児島市の2022年度予算では、道路や宅地の具体的な配置が示される仮換地案が年度末に提案され、地域住民の供覧が予定されているとともに、どのように工事を進めていくのかを決める施行計画も作成されます。これまで県養護学校跡地の本格的な活用について、県は「仮換地の方向性をはっきりしていないことから検討できる段階にない」との答弁を繰り返してきましたが、仮換地案が提案される来年度以降、市との協議を求めます。また、これまで吉野地区では設定されていなかった保留地についてもあらためて廃止するよう求めましたが、市当局は「ご理解いただきたい」と保留地を設定する考えを示しました。

2022年度は、区画整理によって雨水や生活水などが一気に河川に流れ込まないように、稲荷川水系の雨水貯留施設の整備が始まります。2022年度から25年度の施行期間を予定しており、完成後、いよいよ区画整理区域内の工事に着手する予定です。

日本共産党は今後とも、住民本位の区画整理になるよう取り組んでまいります。

## ■ 施工概要図



### 施設概要

#### ○稲荷川貯留施設

最大貯留量：約 36,000 m<sup>3</sup>

整備面積：約 7,000 m<sup>2</sup>

#### ○導流水路

整備延長：約 1,070m

水路断面：幅 1.2m

高さ 1.2m

(ボックスカルバート)

### 事業期間

2022年度～2025年度

お困りごとは  
ありませんか



**日本共産党** 大園たつや市議等がご相談にのります。

# 無料 生活相談会

**第2日曜日 午前10時～11時半まで**

日本共産党吉野事務所 (吉野町 2928-18)

電話・FAX.099-295-8776

